

図書館だより

2025年3月386号
 釧路市音別町ふれあい図書館
 編集者/美村由美子 ☎6-3435



↑本の検索・予約はこちらから↑



↑ふれあい図書館 HP↑

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	 ふれあい DAY
9	10	 出前 de おはなし会	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	 ふれあい DAY
23	24	25	26	27	28	29
30	31	【開館時間】午前 10 時～午後 6 時 【休館日】月曜日、第 3 土・日、祝祭日				

新刊紹介は裏面にあります。

予約・リクエスト本、承ります。
 読みたい本等がありましたら、ご相談ください。お探しいたします。

今月のふれあい DAY

日時: 3月8日(土) 11:00~11:30
 場所: 児童閲覧室(図書館1階)にて
 『おりがみであそぼう』



日時: 3月22日(土) 11:00~11:50
 場所: 視聴覚室(図書館2階)にて
 映画会『アニメ はたらく細胞 2』



令和6年度 音別中学校 POP 展



昨年引き続き令和6年度音別中学校 POP 展を開催いたします！
 音別中学校生徒の皆さんが、“学校図書室の利用促進”と“本に親しむこと”を目的に制作した POP を展示します！是非足を運んで、借りてみてはいかがでしょうか？

展示期間: 3月5日(水)~3月22日(土)

場 所: 音別町ふれあい図書館内にて

昨年3月に開催した時の写真です→



3月はお別れの時期。それに伴ってタイトルに“さようなら”が付いた小説を選んでみました。

もろた れいこ 諸田 玲子 『きりきり舞いのさようなら』
 くぼでら たけひこ 久保寺 健彦 『みなさん、さようなら』

しらいし かずふみ 白石 一文 『一億円のさようなら』
 瀬尾 まいこ 『ありがとう、さようなら』

いわき けい 岩城 けい 『さようなら、オレンジ』
 是非、借りてみませんか？



3月新刊紹介

一般書・実用書

「目の見えない精神科医が、見えなくなって分かったこと」/福場 将太
人生の暗闇を、抜け出そう。何が大切か、見えなくなったあなたへ。

これは、32歳で完全に視力を失うも、それから10年以上にわたり、精神科医として患者さんの心の病と向き合ってきた「目の見えない精神科医」による、見えない探し物の記録です。

「面白くない話事典」/伊藤 竣泰
「面白くない話をしたくない！そうと思ったら読むべきです」

共感性羞恥に「ゾワッ…！」でも読み出すと「止まらない！」未体験エンターテインメント!!

創作や AI では生み出せない 生々しすぎる!! 147 エピソード完全収録

絵本

「すきな あそび おしえて」
「まほうのぼくぼくべんとう」
「ぼくはぼんこつじはんき」
「ようかいむらのなんじゃどうぶつえん」
「0・1・2 さいのきせつとぎょうじ 100」



小説

「私の最後の羊が死んだ」/河崎 秋子
どうして羊飼という職業に就き、順調に美味しい肉を生産していたのに、やめる決断をしたのか。

「小説家前夜」の日々を綴る。
直木賞作家の自伝的初エッセイ

「ドヴォルザークに染まるころ」/町田 そのこ
いつだって、わたしはこの景色に絶望していた。

廃校が決まった小さな町の小学校。最後の秋祭りに集う人たちの、過去と現在、そして未来が交差する。

「私」をかたちづくったのは、この息苦しさ、この絶望、この愛おしさ。

児童書

「おすし まちがいさがし」
「世界の納豆をめぐる探検」
「北海道とアイヌ民族の歴史」
「わたしと話したくないあの子」
「にじいろフェアリーしずくちゃん 10」



今月のおすすめ作家

かくた みつよ
角田 光代

1967年3月8日 神奈川県生まれ

『庭の桜、隣の犬』2004年 『三月の招待状』2008年 『それでも三月は、また』2012年
『降り積もる光の粒』2014年 『大好きな町に用がある』2019年

*他にもご用意しています。是非、借りてみませんか!?

その他の新刊紹介は表面の音別町ふれあい図書館 QRコードから…

図書館からの情報は表面に記載しています。


音別町ふれあい図書館では、学習スペースを3席設置しております。是非、ご活用ください。




新刊紹介



（一般教養・実用書）



- 和田 秀樹 「5歳の壁」
- 大友 しゅうま 「泣ける映画大全」
- 伊藤 峻泰 「面白くない話事典」 
- 玉井 香織 「DIYでつくる収納」
- 瀬戸 圭祐 「全国“野湯”100選」
- 北澤 篤史 「漢字熟語の使い分け図鑑」
- 堀江 貴文 「ニッポン社会のほんとの正体」
- 松生 恒夫 「腸にいい習慣ベスト100」
- 川合 広太郎 「ここからはじめる かな書道入門」
- 西村 敏英 「おいしさの9割はこれで決まる！」
- 内藤 諠人 「タモリさんに学ぶ「人生のたたみ方」」
- 柏木 理佳 「共働きなのに、お金が全然、貯まりません！」
- 福場 将太 「目の見えない精神科医が、見えなくなって分かったこと」

（絵本）


- 「すきな あそびおしえて」 
- 「ぼくはぼんこつじはんき」
- 「まほうのぱくぱくべんとう」
- 「ようかいむらのなんじゃどうぶつえん」
- 「0・1・2さいのきせつときょうじ100」



（小説）

- 青山 美智子 「人魚が逃げた」
- 一穂 ミチ 「恋とか愛とかやさしさなら」
- 一色 さゆり 「音のない理髪店」
- 河崎 秋子 「私の最後の羊が死んだ」
- 川村 元気 「私の馬」 
- 桜木 紫乃 「青い絵本」
- 新川 帆立 「ひまわり」
- 堂場 瞬一 「ポップ・フィクション」
「綱を引く」
- 中山 七里 「作家刑事毒島の暴言」
- 原田 ひ香 「あさ酒」 
- 東野 圭吾 「架空犯」
- 町田 そのこ 「ドヴォルザークに染まるころ」

（児童書）

- 「おすし まちがいさがし」
- 「世界の納豆をめぐる探検」 
- 「北海道とアイヌ民族の歴史」
- 「わたしと話したくないあの子」
- 「にじいろフェアリーしずくちゃん 10」

「ドヴォルザークに染まるころ」/町田 そのこ
 いつだって、わたしはこの景色に絶望していた。
 廃校が決まった小さな町の小学校。最後の秋祭りに集う人たちの、過去と現在、そして未来が交差する。
 「私」をかたちづくったのは、この息苦しさ、この絶望、この愛おしさ。